



日 鶏 協 ニ ュ ー ス

2024年8月号
一般社団法人日本養鶏協会

INDEX

- ・ 第9期家畜防疫互助事業にご参加を！ 1
- ・ 令和6年鳥インフルエンザ経営再建保険の募集について 2
- ・ 2023年～2024年シーズンにおける高病原性鳥インフルエンザ発生に係る疫学調査結果について 3-4
- ・ 【外部研究会からのお知らせ】日本たまご研究会第20回記念大会 5
- ・ 本年11月1日から「特定受託事業者に係る取引の適正化等に関する法律」（フリーランス法）がスタートします 6
- ・ 畜産統計 採卵鶏の飼養動向（農林水産省） 7-10
- ・ 統計データ 11
- ・ 協会活動報告 12

第9期家畜防疫互助事業にご参加を！

7月12日に、第9期（令和6年度～令和8年度）家畜防疫互助事業のご案内を、第8期にご参加の皆様と日本養鶏協会会員で第8期に未参加の皆様にお送りさせていただきました。

家畜防疫互助事業は、鳥インフルエンザが万一発生した場合に、安心して経営を維持・継続ができるように、生産者が自ら積み立てを行い、発生農場が経営再開までに必要な経費等を相互に支援する仕組みに、国が補助する制度です。

鳥インフルエンザは、このところ4年連続で発生しており、令和2年度及び令和4年度には大量発生がありました。皆様におかれましては、引き続き防疫に努めていただきますとともに、万が一に備え、是非、家畜防疫互助事業にご参加いただけますようお願い申し上げます。

生産者積立金の単価

鶏 (家族型)	採卵鶏（成鶏）	1羽当たり	6円
	採卵鶏（育成鶏）	1羽当たり	3円
鶏 (企業型)	採卵鶏（成鶏）	1羽当たり	8円
	採卵鶏（育成鶏）	1羽当たり	4円

交付上限単価

鶏 (家族型)	採卵鶏（成鶏）	1羽当たり	790円
	採卵鶏（育成鶏）	1羽当たり	370円
鶏 (企業型)	採卵鶏（成鶏）	1羽当たり	970円
	採卵鶏（育成鶏）	1羽当たり	450円

【お問い合わせ】

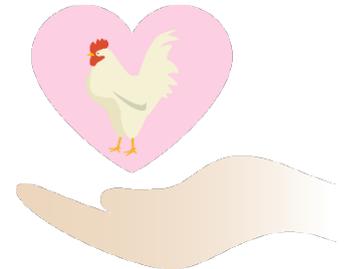
業務第1部 Tel : 03-3297-5515



令和6年 鳥インフルエンザ経営再建保険の募集について

会員の皆様が安心して採卵養鶏業に従事できるよう、鳥インフルエンザに感染した場合に経営再建を目指す採卵農家を日鶏協は全力でサポートします。

会員の皆様へは7月19日に関係書類一式を送付させていただきました。令和6年の補償内容等、以下概要をご案内いたします。



令和6年 鳥インフルエンザ経営再建保険

(1) 募集要領

申込期限	令和6年9月6日(金)
保険料払込期限	令和6年9月13日(金)
保険期間	令和6年10月1日(火)～令和7年9月30日(火)(12ヶ月)
保険料	成鶏1羽あたり9.00円、育成鶏1羽あたり4.50円

(2) 補償内容

個別補償限度額	成鶏1羽あたり430円、育成鶏1羽あたり180円
年間総支払限度額	12億円（合計保険料5.8億円以上の場合）

(3) 補償対象

経営再建を問わず、保険金を一括でお支払いします。
死亡・殺処分羽数が10万羽を超える場合は、羽数に応じて、5～20%の自己負担額が発生します。

【ご注意】大量発生等により年間支払限度額を超える支払が想定される場合は、その限りではありません。

(4) 引受保険会社 共栄火災海上保険株式会社（幹事）

既加入者の皆様はよくご存じのことと思いますが、本保険は日本養鶏協会会員様限定で加入することのできる団体保険となっております。年に一度のこの機会に、ぜひご加入をご検討ください。

【お問い合わせ】

業務第1部 Tel : 03-3297-5515



2023年～2024年シーズンにおける 高病原性鳥インフルエンザ発生に係る疫学調査結果について

9月中までに防疫体制の整備を！ 全ての従業員・外来業者での衛生対策の徹底を

農林水産省は、7月3日、「2023年～2024年シーズンにおける高病原性鳥インフルエンザ発生に係る疫学調査報告書」を公表しました。その概要を紹介します。

(1) 発生の特徴

今シーズンは、令和5年11月25日に佐賀県で初発例を確認し、我が国ではこれまでに例のない4シーズン連続の発生となった。一方、野鳥については過去4シーズンの中で2番目の大規模な感染がみられたことから、昨シーズン同様、全国的に長期間にわたり家きん農場へのウイルス侵入リスクが極めて高い状態にあったと考えられたが、家きん農場での発生件数は4月29日の千葉県富里市での発生まで合計10県11事例であり、過去4シーズンで最も少なかった。

また、2例目（茨城県）及び4例目（鹿児島県）については、昨シーズンにも発生のあった農場における再発であり、これら農場の所在する地域は、発生する環境要因が揃っており、発生リスクが高い地域であると考えられた。

(2) 侵入経路

農場へのウイルスの侵入については、農場周辺の水場に飛来する感染した野鳥や、農場に飛来する感染したカラス類が農場周辺、農場内へウイルスを持ち込んだ可能性が考えられた。

家きん舎へのウイルスの侵入経路については、ほとんどの発生農家で壁や防鳥ネットの破損部からのカラス等の野鳥や小動物の侵入、手指消毒等の不徹底がみられたことから、これらが要因となった可能性が考えられた。これらの衛生対策の不徹底は過去の多くの発生農場で共通してみられている点である。

(3) 提言

今シーズンの発生件数が昨シーズンに比べて大幅に減少した理由として、①野鳥の行動変化や感染状況などの環境要因、②感染性や病原性の強さなどウイルス自体の性状、③農場における飼養衛生管理の対策状況など、様々な要因が関与した結果と推測される。これらの要因のうち、少なくとも飼養衛生管理の対策は自律的に改善可能な取組であることは認識すべきである。



近年の国内及び世界各地でのHPAIの発生状況等を考慮すると、本年も秋以降、国内にHPAIVが侵入する可能性が考えられる。また、4月末に発生した国内11例目を考慮すると、来シーズン以降も、国内の広い地域において、春以降も家きんでの発生が継続するおそれがある。さらに、世界的なHPAIの流行により、2020年～2021年以降国内に侵入するウイルスの遺伝子型も多様化し、来年侵入するウイルスの性状等を予測することはできない。これらを踏まえ、従来から行っている対策に加え、

- ① 23/24シーズン同様、9月中の防疫体制の整備とともに、11月～翌年1月を重点対策期間とした対策の徹底
- ② 農場・家きん舎内へHPAIVを侵入させないための全ての従業員・外来者の衛生管理順守の徹底及び第三者の視点や飼養衛生管理等支援システムを用いた順守状況の正しい理解・評価
- ③ 過去に発生のある地域・農場において特に発生リスクが高くなる環境要因があることを念頭に置いた農場での警戒や地域的な対策の徹底
- ④ 地域一体となった農場周辺地域におけるカラス等の野鳥誘引防止対策及び農場における野鳥等の侵入防止対策の実施
- ⑤ 早期摘発・早期通報の徹底による近隣伝播リスクの低減
- ⑥ 米国で確認されている乳牛のHPAIVの感染を踏まえた、乳牛に乳量低下、食欲低下等がみられた場合における隔離及び家畜保健衛生所等への相談並びに原因が特定されない場合におけるHPAIの可能性も考慮した検査の検討等が重要である。

■ [2023年～2024年シーズンにおける高病原性鳥インフルエンザの発生に係る疫学調査報告書](#)
(農林水産省)

https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/tori/attach/pdf/r5_hpai_kokunai-153.pdf



【外部研究会のお知らせ】 日本たまご研究会第20回記念大会 (Egg Science Forum 2024) 開催のお知らせ

日本たまご研究会が実施する研究会を下記のとおりご紹介いたします。

「日本たまご研究会」：たまごに見識深い人、たまご研究の発展に興味を持つ人それぞれの専門性の観点から情報交換を図り、たまごの秘密を解き明かすことを目的とし、2004年から活動を行っています。

各界の専門家による興味深い講演の数々、ユーザーの方々との情報交換において、きっと役に立つ知識が得られると思います。

参加を希望される方は、下記問い合わせ先までご連絡ください。

- 日時 : 2024年11月9日(土) 13:00~17:00
主催 : 日本たまご研究会
場所 : 京都女子大学 B校舎5階 B501教室
(京都市東山区今熊野北日吉町35番地 京都女子大学)
参加費 : 参加費:2,000円 懇親会参加費:4,000円
申込方法 : 以下の申し込みフォームよりお申し込みください。(10月12日(土)まで)
<https://forms.gle/VUb9NqsQzn8f7s3n6>

【講演者と演題】

- 『採卵養鶏業界の将来を考える—少子高齢化社会における卵の価値向上—』
たまご知識普及会議、株式会社 愛鶏園 会長 齋藤 大天 氏
- 『アニマルウェルフェアとファーマーズウェルフェアを考える』
農業・食品産業技術総合研究機構 加藤 博美 氏
- 『採卵養鶏企業の高付加価値化を考える
—飼料米の活用と生活習慣病予防卵の生産—』
元 福井県農畜産課 現 加藤技術士事務所 加藤 武市 氏
- 『日本たまご研究会の20年を振り返り- 鶏と卵の未来を考える』
京都女子大学研究教授、NBL「鶏と卵の研究所」 八田 一 氏

第6回エコたま表彰 受賞講演

『卵黄指数(YI)による鶏卵鮮度の測定と賞味期限』

岡山県立大学 助教. 久保 七彩 氏

(詳細はホームページ参照: <https://www.facebook.com/nihontamaken/>)

【お問い合わせ】 日本たまご研究会事務局 E-mail: nihontamaken@gmail.com

京都女子大学 八田研究室 担当: 八田 Tel: 075-531-6220

株式会社ナベル内 担当: 沖本 Tel: 075-693-5301



本年11月1日から「特定受託事業者に係る取引の適正化等に関する法律」 (フリーランス法) がスタートします

【背景】

近年、働き方の多様化が進展し、フリーランスという働き方が年々増加しています。一方で、取引先との関係で約4割が報酬不払い、支払い遅延などのトラブルが発生しています。このような中でフリーランスが不当な不利益を受けることなく、安定的に働く環境が求められています。これらを受け、本年11月1日から「フリーランス法」がスタートします。

【法律の目的】

フリーランスの方が安心して働ける環境を整備するため、以下の2点を図ることを目的としています。

1) フリーランスの方と企業などの発注事業者の間の取引の適正化

(義務事項：3項)

① 書面等による取引条件の明示、② 報酬支払期日の設定・期日内の支払、③ 禁止行為、
→①～③については、公正取引委員会・中小企業庁のサイトをご参照ください。

2) フリーランスの方の就業環境の整備。

(義務事項：4項)

④ 募集情報の的確表示、⑤ 育児介護等と業務の両立に対する配慮、⑥ ハラスメント対策に係る体制整備、⑦ 中途解除等の事前予告・理由開示、
→④～⑦については、厚生労働省のサイトをご参照ください。

※ フリーランスとは、特定の企業や組織等に所属せず、企業等から業務委託を受け働く事業者のことをいいます。

《法律の適用範囲》

発注事業者からフリーランスへの「業務委託」(事業者間取引)

※ **注意事項**：フリーランス法に違反した場合、発注事業者に罰則が科せられる規定があります。

詳しくは、以下の各省庁のサイトをご確認ください。

(内閣官房)

https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/atarashii_sihonsyugi/freelance/index.html

(公正取引委員会) https://www.jftc.go.jp/flaw_limited.html

(中小企業庁)

https://www.chusho.meti.go.jp/keiei/torihiki/law_freelance.html

(厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyoukintou/zaitaku/index_00002.html



畜産統計 採卵鶏の飼養動向（農林水産省）

農林水産省から畜産統計（速報値）が公表されました。採卵鶏の調査結果につき概要をご紹介します。

■ 畜産統計調査

<https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/tikusan/>

■ 農林水産統計-畜産統計（令和6年2月1日現在）

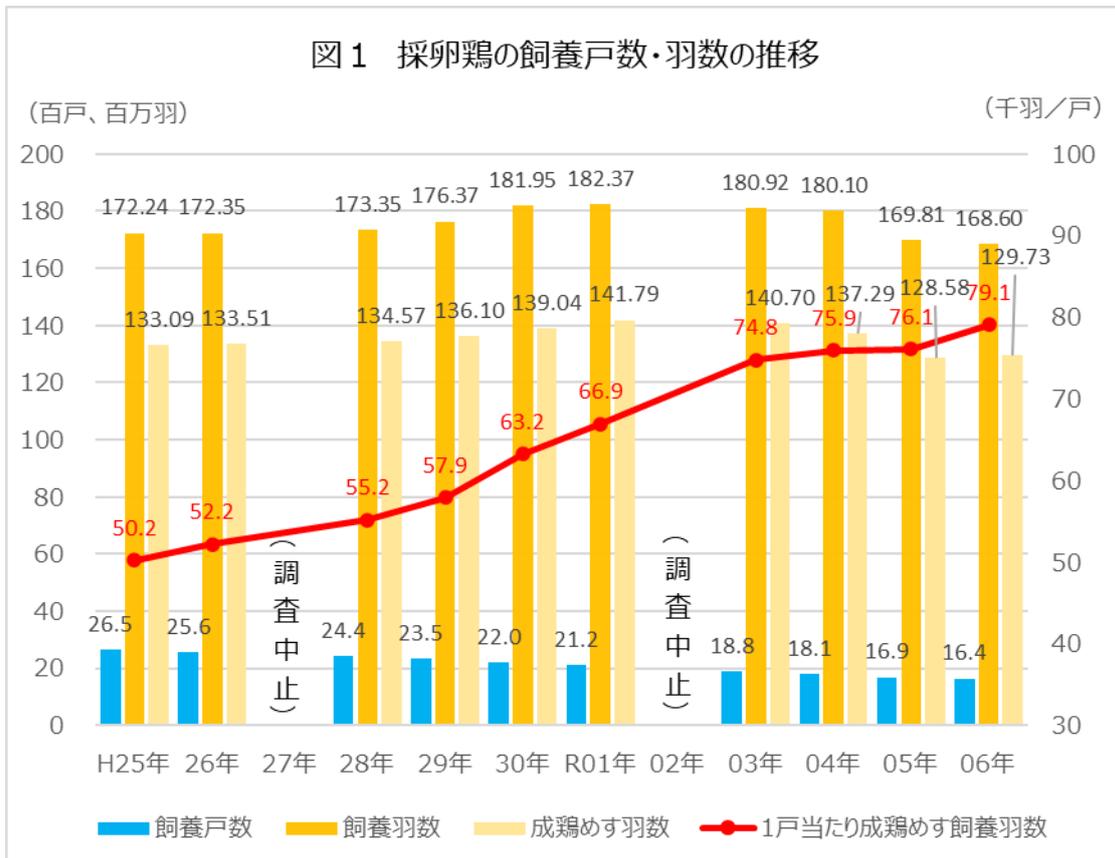
https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/tikusan/pdf/tikusan_24.pdf

1. 飼養戸数・羽数

飼養戸数は1,640戸で、前年に比べ50戸（3.0%）減少しました。

成鶏めす（6か月齢以上）の飼養羽数は1億2,972万9,000羽で、前年に比べ115万羽（0.9%）増加しました。

なお、1戸当たり成鶏めす飼養羽数は7万9,100羽で、前年に比べ3,000羽（3.9%）増加しました。





2. 成鶏めすの飼養羽数規模別飼養戸数・羽数

成鶏めすの飼養羽数規模別に見ますと、採卵鶏の飼養戸数は、前年に比べ「1,000～9,999羽」及び「10,000～49,999羽」の階層で減少したほか、「50,000～99,999羽」の階層で前年並みとなりましたが、これら以外の階層では増加しました。

成鶏めすの飼養羽数は、前年に比べ「1,000～9,999羽」及び「10,000～49,999羽」の階層で減少しましたが、これら以外の階層では増加しました。

なお、規模別の構成比は、「100,000～499,999羽」の階層が飼養戸数では16.3%、飼養羽数では47.5%となっています。

図2 成鶏めす飼養規模別飼養戸数及び構成比

飼養戸数 (構成比%)

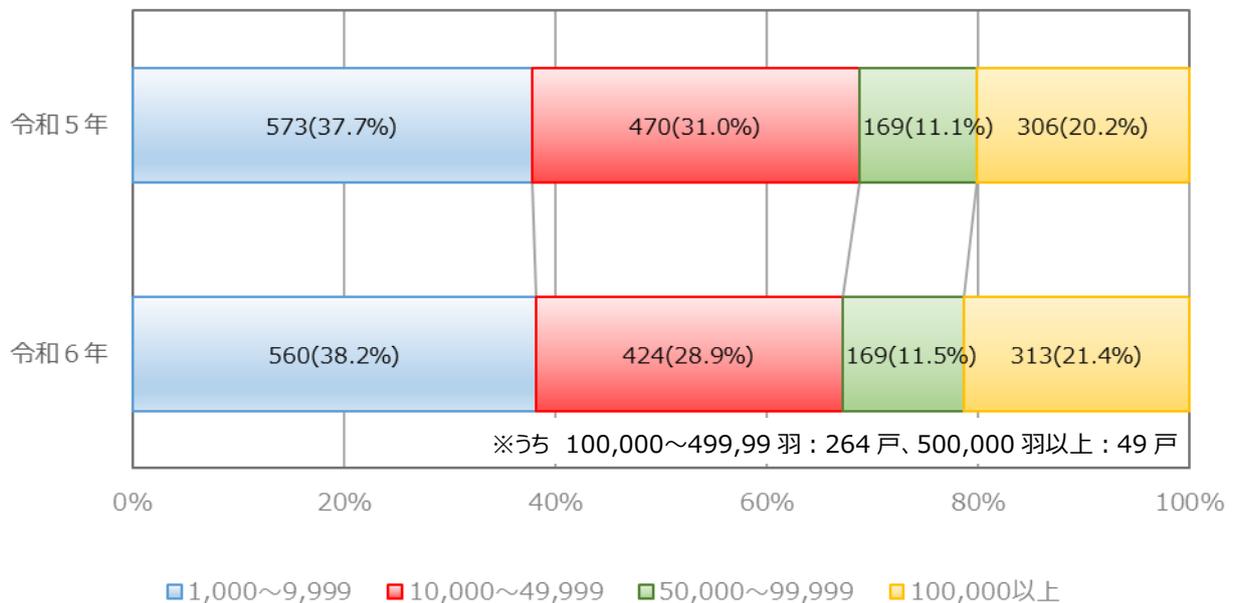
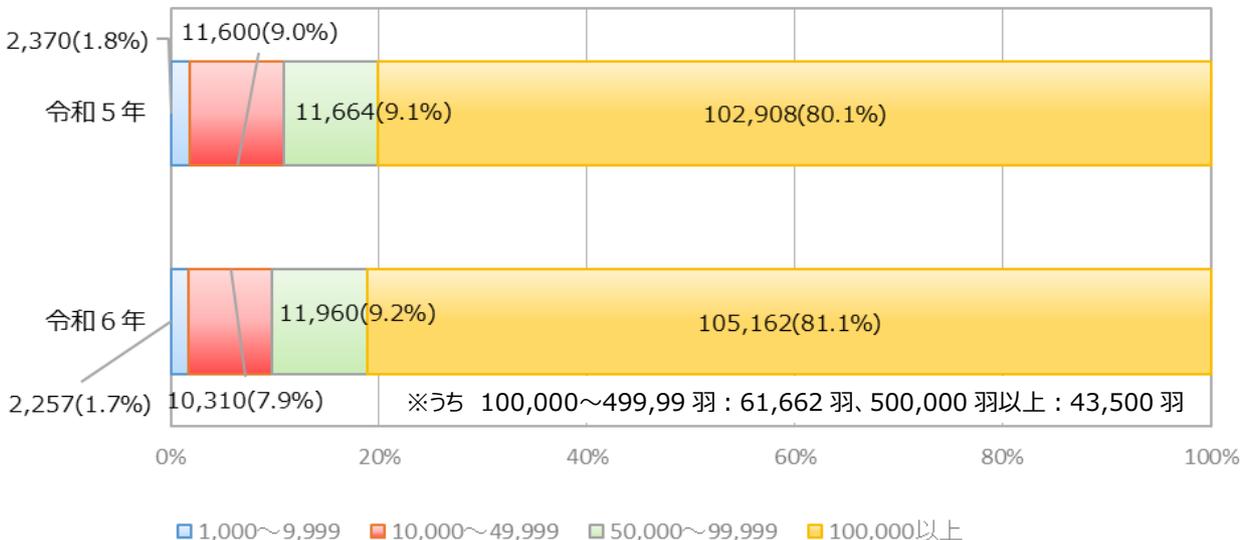


図3 成鶏めす飼養規模別飼養羽数及び構成比

上段：羽数(単位：千羽)

下段：%



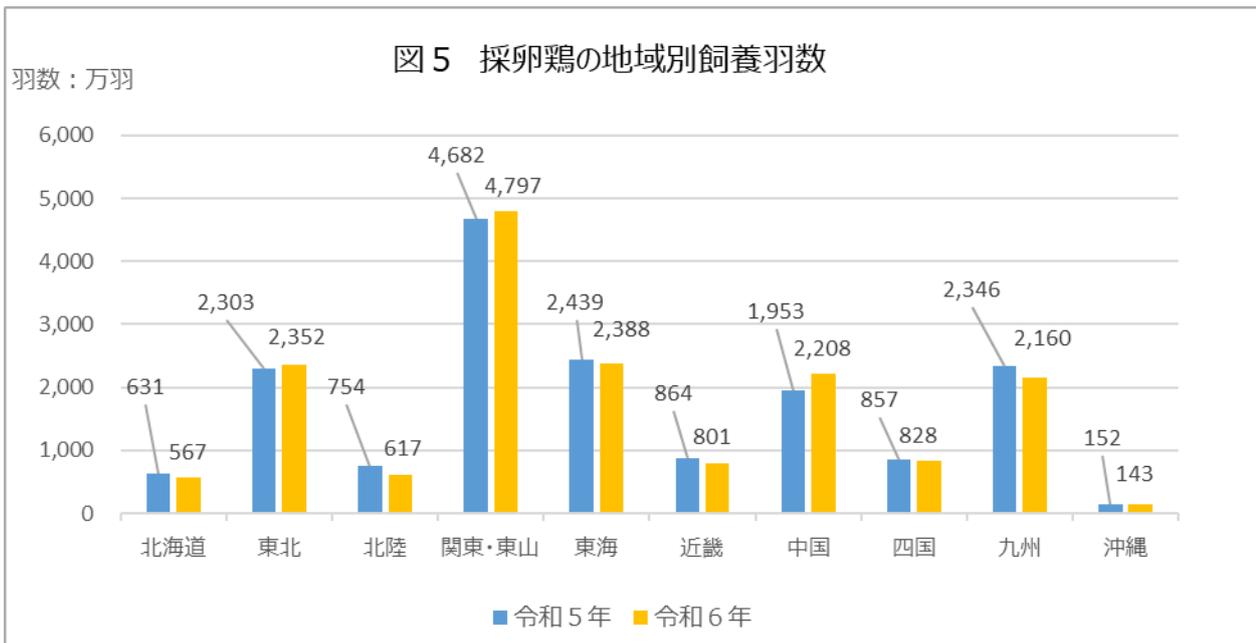
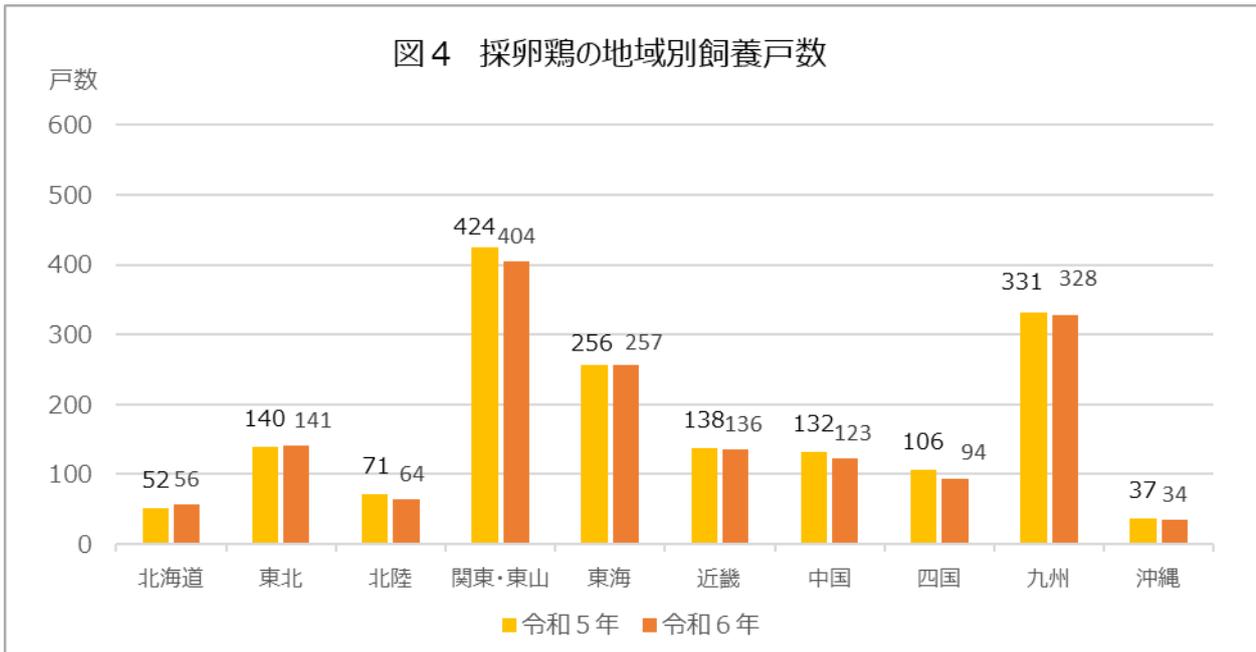


3. 地域別飼養戸数・羽数

地域別にみますと、飼養戸数は、前年に比べ北海道、東北及び東海で増加しましたが、これら以外の地域では減少しました。

飼養羽数は、前年に比べ東北、関東・東山及び中国で増加しましたが、これら以外の地域では減少しました。

なお、地域別の割合は、関東・東山が全国の約3割弱を占めています。





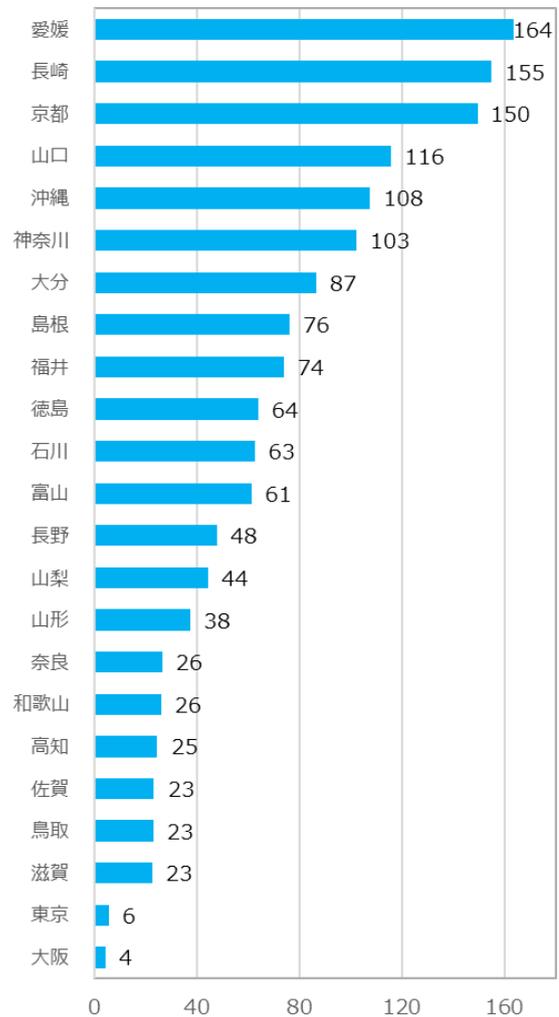
4. 都道府県別成鶏めす飼養羽数

令和6年2月1日現在における都道府県別成鶏めす飼養羽数をみますと、千葉県が1,119万羽（構成比8.6%）と最も高く、2位茨城県1,022万羽、3位岡山県709万羽、4位鹿児島県708万羽、5位愛知県662万羽の順になりました。

なお、前年から上位5位の中で変動があり、1位が千葉県となりました。岡山県が5位から3位にあがりました。

図6 都道府県別成鶏めす飼養羽数

<単位：万羽>



【お問い合わせ】

農林水産省 大臣官房統計部生産流通消費統計課

担当者：畜産・木材統計班

代表：03-3502-8111（内線 3686）ダイヤルイン：03-3502-5665



統計データ



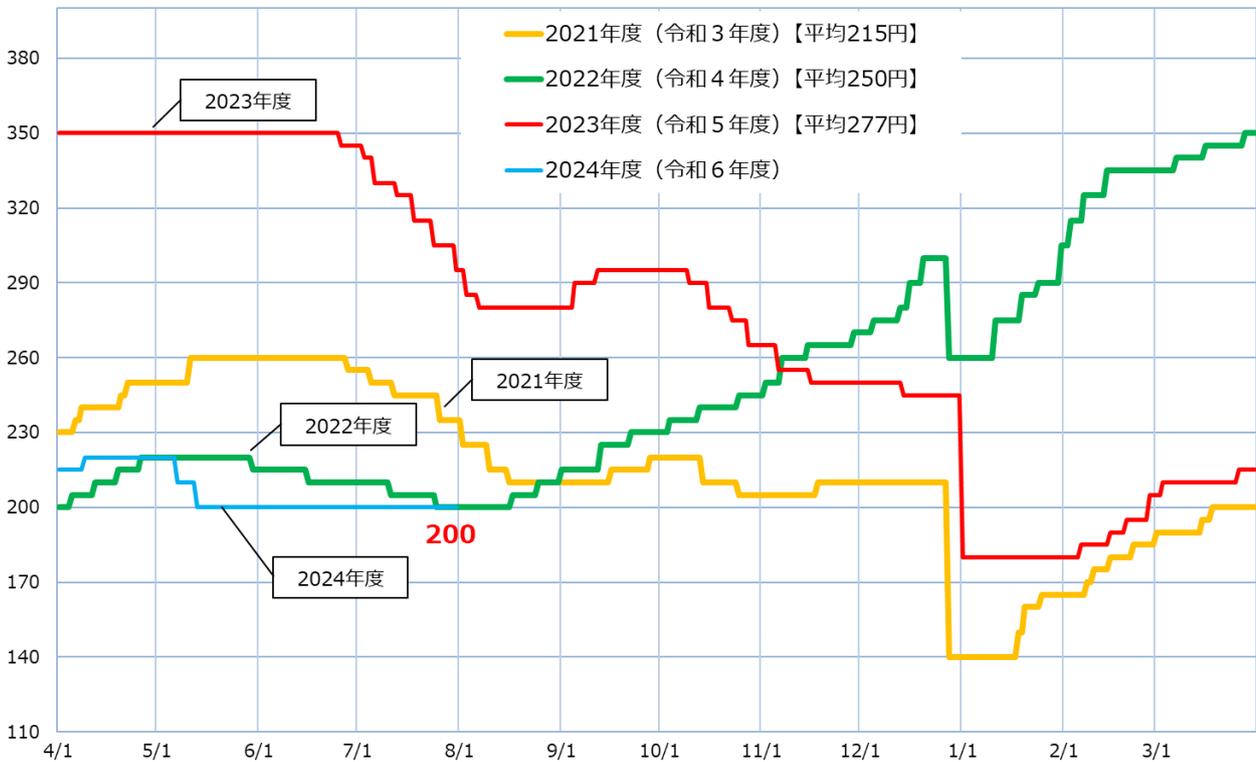
鶏卵相場動向 — 過去10年間の7月相場 東京全農Mサイズ 円/kg

	平均値	高値	安値
平成27年	213	238	204
平成28年	184	213	174
平成29年	191	215	176
平成30年	173	193	159
令和元年	150	168	144
令和2年	153	175	139
令和3年	245	275	229
令和4年	205	232	194
令和5年	320	364	289
令和6年	200	224	194
平均値	203	230	190

令和6年7月の鶏卵相場（東京全農Mサイズ）の高値224円は、過去10年の平均値230円を6円下回り、安値194円は、過去10年の平均値190円を4円上回っています。



鶏卵相場推移 2021年度～2024年度 東京全農Mサイズ 円/kg



鶏卵相場は6月末の200円から横這いが続き7月末でも200円のままでした。



鶏卵関係主要計数 ―― 令和6年5月までの年間の主要計数推移

注：鶏餌付羽数は全国推定値

	鶏餌付羽数(出荷)		配合飼料出荷量		家計消費量		鶏卵相場	
			成鶏用		一人当たり		東京全農M	
	数量(千羽)	前年比	数量(千ト)	前年比★	数量(g)	前年比	前年	本年
5年 6月	9,641	114.1%	443	90.9%	817	94.9%	213	349
7月	9,325	103.4%	428	96.9%	813	88.8%	205	320
8月	8,694	102.5%	434	93.0%	859	97.9%	204	282
9月	8,053	102.9%	427	92.4%	849	96.2%	223	292
10月	8,801	104.7%	457	97.3%	891	93.2%	239	283
11月	8,671	98.9%	466	96.6%	876	96.2%	262	254
12月	9,584	105.6%	501	98.4%	951	100.8%	284	247
6年 1月	7,545	89.0%	456	102.3%	898	100.0%	280	180
2月	7,631	92.1%	453	106.9%	891	105.0%	327	190
3月	8,325	87.9%	464	97.4%	928	112.1%	343	211
4月	8,283	95.0%	478	108.2%	876	103.6%	350	219
5月	8,046	86.1%	477	102.2%	937	112.5%	350	204
1年間合計 平均(%)	102,599	98.5%	5,484	98.5%	10,587	100.1%	273(平均)	253(平均)

- ・鶏餌付羽数は、8,046千羽（前年比86.1%）と前年比13.9%減となりました。
- ・配合飼料出荷量は、477千トン（前年比102.2%）と前年比2.2%増となりました。
- ・鶏卵の家計消費量は937グラム（前年比112.5%）と前年比12.5%増となりました。
- ・鶏卵相場は、前年平均の146円安を示しました。
- ・配合飼料出荷量 前年比★は、生産量の前年比となります。

協会活動報告

鶏卵生産者経営安定対策事業 (<http://www.jpa.or.jp/stability/>)

① 価格差補填事業参加者の

契約数量（単位：t）

令和3年度	1,840,695
令和4年度	1,794,699
令和5年度	1,731,712
令和6年度	1,824,301

② 標準取引価格

令和6年7月 208.73円/kg

③ 令和6年度

鶏卵生産者経営安定対策事業の基準価格

補填基準価格 222円/kg

安定基準価格 202円/kg

日鶏協ニュース 発行者：一般社団法人 日本養鶏協会

〒104-0033 東京都中央区新川二丁目6番16号 馬事畜産会館内(5階)

Tel：03-3297-5515 Fax：03-3297-5519 発行日：2024年8月6日

編集・発行責任者：石井 馨 (info@jpa.or.jp)